

2007 年度事業報告および収支決算書



2008 年 3 月

環境 NGO IKAW AKO (イカオ・アコ)

Japan-Negros Partnership for Environmental Protection

1. 2007 年度の活動

(1) マングローブ植樹と生育調査

1995 年から現在まで、全国の若者（延べ 280 人）を募り、過去 42 回にわたり、現地においてマングローブの植樹を実施してきた。1997 年にシライ市と植樹プラン作りを行い、バラリン村の植樹サイトを一手に任されてきた。植樹後の維持管理は当 NGO 現地駐在スタッフ、専門家の指導の下、現地の村民、小学生が担当する。これらのプロジェクトにはパートナーシップに基づき、現地大学、現地行政、現地コミュニティなど積極的に参加している。

新しく策定したスローガン「2010 年マングローブ 30 万本再生計画」の一環として、フィリピンネグロス島シライ市バラリン村において年 5 回、ネグロス島南部のカワヤン周辺において年 2 回の植樹活動、を行った。その概要は以下の表の通りである。現在の達成率は約 40%である。

	第 38 回	第 39 回	第 40 回
時 期	2007 年 4 月 30 日 ～5 月 5 日	2007 年 8 月 15 日 ～8 月 20 日	2005 年 9 月 21 日 ～9 月 24 日
場 所	バラリン村	バラリン村 カワヤン	バラリン村
日本側参加人数	1 名 現地駐在 0 名	23 名 現地駐在 1 名	1 名 現地駐在 0 名
比側参加者	約 60 名	約 300 名	約 30 名
植樹本数	7,000 本	14,500 本	1,000 本
定着率	10%	30%	10%

	第 41 回	第 42 回
時 期	2007 年 11 月 23 日 ～11 月 27 日	2008 年 2 月 17 日 ～2 月 24 日
場 所	バラリン村	バラリン村 シパライ
日本側参加人数	3 名 現地駐在 0 名	5 名 現地駐在 1 名
比側参加者	約 60 名	約 400 名
植樹本数	9,000 本	24,800 本
定着率	10%	30%

もともとネグロス島南部カワヤンの定着率は良い。従来から定着が困難であったバラリン村で、苗の定着率が良くなっている。ここが緑に変わる日もそう遠くない。

(2) カニ養殖事業の自立

2003 年より始めた、マングローブ林との共生を図るカニ養殖事業の指導を植樹活動と共にやってきた。昨年に引き続き、稚ガニは順調に育ち、集荷割合も 3 割を超え、損益分岐点を突破している。採取したカニをレストランへ出荷している。今後の課題として、出荷量を増やすことと、毎日、品質の良いカニの定量的な出荷が望まれている。

(3) GIS を活用したマングローブ林の保全管理

マングローブ林を効果的に保全管理するために、GPS による測量を実施し、踏査によって調査した樹種などのデータを整備し、地理情報システムを構築する。測量により、正確な面積を出し、踏査により土壌、樹種、消滅原因・経過、後背地の状況などを調査する。それらをデジタル化して地理情報システムとして整備し、科学的な再生や管理を目指す。

(4) コミュニティでの文化交流事業

植樹サイトがある Balaring 村の Closing Program と障害児施設である Jack & Jill School で、日本文化の紹介として剣玉などの披露を行った。フィリピン側は保育園から老人まで、年代毎に祭り衣装に身を包んで歌や踊りを紹介してくれた。

(5) イカオ・アコ設立 10 周年記念事業

イカオ・アコの設立 10 周年を記念して、現地および国内で大々的に事業を行った。現地ではモーターケード、ダンスコンテストを実施。国内では活動報告会、記念パーティーを開催した。

(6) 奨学金制度の継続

イカオ・アコのカウンターパートであるフィリピン工業大学において、環境に関わりの深い領域を専攻する、意欲のあるフィリピン学生 3 名に対して、授業料と下宿代の奨学金を与えるプログラムを継続した。

(7) 国内活動

- ・ 植樹事業参加者募集とオリエンテーション
- ・ スケジュールの設定・航空券などの手配・現地との連絡
- ・ 帰国後のプロジェクト評価・反省
- ・ 高校の総合学習のお手伝い
- ・ メールマガジン、ブログ等の充実化

2. 2007 年度収支決算

【収入の部】

科 目	内 容	金 額
前年繰り越し分		¥72,033
寄付金・会費		¥2,454,880
フェアトレード		△¥34,517
ツアー代金		¥3,196,980
助成金		¥2,572,892
利子収入		¥2,988
合 計		¥8,265,256

【支出の部】

科 目	内 容	金 額
給与手当		¥1,560,000
広告宣伝費	インターネット	¥30,240
荷造運賃手数料		¥3,780
旅費交通費		¥61,040
海外渡航費	運賃、宿泊費など	¥4,142,321
通信費		¥510
諸会費		¥30,000
保険料		¥162,380
Project 経費		1,383,730
マングローブ苗		540,058
雑費		¥52,295
繰り越し		¥298,902
合 計		¥8,265,256

3. 今後の課題

(1) 植樹の効果の検証

1年間の植樹本数の増加は評価できる。現地駐在者、地元小学生、住民が植樹した苗の世話をしている。また、現在10サイトで植樹事業を進めているが、その効果について検討する必要がある。

(2) マングローブ再生マスタープラン作成のための事業

州全体でも大きな環境問題を抱えている地域が多い。我々はマングローブ植樹を主要事業としながら、地元の関係機関とともに地域全体でのマングローブ再生のための調査を開始した。詳細な事業計画をまとめ、効果的に遂行していく必要がある。

(3) 日本国内での交流事業

フィリピンでの植樹事業には、県知事、市長、大学学長などが参加し、テレビ・新聞で報道されるなど、評価の高い事業となっている。今後は、日本国内での交流事業を拡大し、サポーターを増やすイベントが必要である。

(4) NPO 法人化の検討と収支のバランスの追求

イカオ・アコの活動は10年を経て、活動量、知名度などが向上し、新しいステップに入ったといえる。更なる活動の充実を目指し、法人化の検討を進めるものとする。それとともに拡大した事業量に応じて出費も膨らんでおり、事業のスクラップアンドビルドが望まれる。

4. 会員の状況（2008年3月31日現在）

正会員	185名
賛助会員	4名
名誉会員	1名

以 上